

【別紙様式 3-2 提出意見とそれに対する栃木県の考え方】

「地球温暖化対策実行計画（素案）」に対する意見募集を行った結果、2名の方計10件の御意見を頂きました。貴重な御意見ありがとうございました。
提出された御意見を十分検討の上、それに対する県の考え方を次のとおりまとめました。

項 目	意 見 の 内 容	意見に対する考え方
部門別削減目標について	<p>産業部門は少し少なく思う。 4%=>8% 10%=>20% 家庭部門は達成不可能では？ 16%=>13% 40%=>30% 目標達成可能なレベルで県民が納得して実践できることが必要と思います。</p>	<p>「第4章4.1(5)」の本文に記載しましたとおり、各部門の削減目標は、国の目標をベースとして設定しているものです。したがって、その数値を大きく変更することは現実的でないものと考えております。県としましては、これらの目標達成のため、各種施策を実施して参る所存ですので、引き続きの御協力をお願いいたします。</p>
森林吸収源対策について	<p>2. 森林吸収源対策（Co2吸収酸素排出、）各部門においても発生量分の植樹活動を実践を。 ①. 産業部門は敷地内に、 ②. 家庭部門は部屋の中、敷地内に ③. 業務部門は敷地内に、 ④. 事業所は敷地内に、植樹活動に金銭支援を行う。</p>	<p>各主体が管理する敷地内で植樹活動を実施しても排出している温室効果ガス量と同量の吸収量を確保することは不可能だと考えます。本計画では、森林吸収源対策のみでなく、省エネルギーや再生可能エネルギーの利活用等をあわせて行うことにより温室効果ガスの排出量の削減を実施していくことが重要であるという考えに基づき、各種施策を記載しております。</p>
社会基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・活動家の活動支援対応を行う。（実費の支給） ・県民への対応は階層単位に実践型出前講座の開催を・・・ <p>学校時間内に実践型出前講座の開催 +小学校～高等学校には県のエコリーダーの方達の力を +社会人には栃木県地球温暖化防止活動推進員、省エネルギー普及指導員の方達の力を、エネルギー管理者の方達の力を、家庭版省エネルギーアドバイザー等、</p>	<p>地球温暖化対策の普及啓発にはエコリーダーや地球温暖化防止活動推進員などの方々の活動が重要であると考えております。この点、「第4章4.5社会基盤づくり」におきまして、そうした方々との連携等について記載しましたほか、学校等での環境学習の推進についても記載しております。</p>

項 目	意 見 の 内 容	意見に対する考え方
重点プロジェクトについて	<p>重点プロジェクト：追加 一般家庭用水素の製造から一般家庭での利用技術までのシステム改革プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水素の製造方法と水素を移動させる為の装置（ボンベ） ・水素電池の量産化（共同開発） ・水素エンジン開発委託等、水素を応用した商品化する。 	<p>水素の活用については将来的に地球温暖化対策で重要なものとなりうるものの、ご指摘いただいた一般家庭での水素の製造や利用機器等の商品化（具体化）は、技術的にまだ難しいところがあり、現時点では42頁の重点プロジェクトに位置づけておりません。</p>
その他	<p>具体的な記述が多く、非常にわかりやすいと思いました。世界の動きに遅れずに、地球温暖化に取り組んで下さい</p>	<p>御意見を踏まえ、本県の地球温暖化対策を引き続き推進して参ります。</p>
その他	<p>（国際的な取組について） 2015年 COP21(フランス・パリ)開催予定 →2015年 COP21(フランス・パリ)開催</p>	<p>御意見を踏まえ、3頁の図1-4をパリ合意の要点を追記するため変更いたしました。</p>
その他	<p>図1-7内 人間活動による温室効果ガス ・・・動植物による</p>	<p>ご指摘のとおり温室効果ガス排出は動植物によるものもありますが、地球温暖化の要因は人間活動による温室効果ガス排出量の増加が中心であることを踏まえ、6頁の図1-7はその旨の記述としております。</p>
その他	<p>図3-2に追加 日照時間分布表（太陽光発電や太陽熱の利用検討用）</p>	<p>9頁の図3-2は気候の特性を示す要素のうち代表的なものを示したものであり、日照時間の分布は代表的なものとは言いがたいため、記載しておりません。</p>
その他	<p>バイオマスの説明 追加 牧場における 牛、豚、鶏、等の フン活用</p>	<p>13頁のバイオマスの説明は代表的なものを例示して記述しており、ご指摘の趣旨も含まれております。</p>
その他	<p>全部門において自給自足（エネルギーを生産＝消費にする努力。）出来る、体制作りを目標し、「実践と実行」を行うのを目指す。</p>	<p>全部門においてエネルギーの自給自足を実現することは不可能であると考えます。ただし、エネルギー収支ゼロとなる住宅の例など、一部の例については本計画の44頁で紹介いたしております。</p>